

## 枳実 AURANTII FRUCTUS IMMATURUS

(基原) 1)3)5)17)

ダイダイ *Citrus aurantium* Linne var. *daidai* Makino, ナツミカン *Citrus natsudaidai* Hayata 又はその他近縁植物 (ミカン科: *Rutaceae*) の未熟果実をそのまま又は半分に横切したものである。

東医研薬局では日本産 (四国) のミカン科ナツミカンの幼果を使用。

(性状) 1)

ほぼ球形で径1~2cm、または半球形で径1.5~4.5cmである。外面は濃緑褐色~褐色でつやがなく、油室による多数のくぼんだ小点がある。横切面は周辺が厚さ約0.4cmの外果皮及び中果皮からなり、表皮に接する部分は黄褐色、その他は淡灰褐色を呈する。中心部は放射状に8~16個の小室に分かれ、各室は褐色を呈してくぼみ、しばしば未熟の種子を含む。採取時期は7~8月。

(産地) 1)2)3)17)

日本、中国、韓国等で産出される。

日本：和歌山、広島、愛媛の各県

中国：四川、江西の各省

輸入量は年間約25トン、国内産は約30トン

日本における市場品の多くは日本産のものである。

(品質)

芳香性で果皮が厚く、苦味の強いものが良品とされている。また、陳 (ふる) くて表面が黒味を帯びているものが良く、新しいものは気味が激しいので用いないほうが良いとされている。1)3)17)

新古方薬囊には「和産にては橙を上品とし、みかんを下品とす。然れども之も生にありては区別し易けれ共きざみたる物にては分かち難し。出来得る限り橙を用ふるを宣しとす。みかんは気味劣るの観あり、朝鮮産亦良品とす。市場には見当らざれどもからたちの実亦可なり。何れも用ふべし。」とある。<sup>8)</sup>

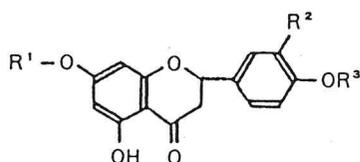
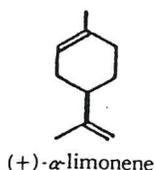
(成分) 1)2)3)5)6)9)17)

精油：d-limonene、linalool、citralなど

フラボノイド配糖体：naringin、neohesperidin、hesperidin、narirutinなど

クマリン類：umbelliferone、aurapteneなど

その他：synephrine



	R <sup>1</sup>	R <sup>2</sup>	R <sup>3</sup>
hesperidin	rutinose	OH	CH <sup>3</sup>
neohesperidin	neohesperidose	OH	CH <sup>3</sup>
naringin	neohesperidose	H	H
poncirin	neohesperidose	H	CH <sup>3</sup>

生薬の基原、産地等の違いにより成分、含量に大きな差があり、基原植物の違いと合わせ、日本の漢方医学、中医学等の枳実あるいはその配合の漢方方剤においても、その薬理作用、用法等で同一視は出来ない可能性が大きい。

(現代薬理)

○心臓に対する作用：2)5)6)9)17)

- ・枳実エキスは麻酔犬、静脈内投与で昇圧作用が認められる。
- ・また、枳実エキスはガマ全身血管灌流法で軽度の血管収縮作用、さらにガマ摘出心臓標本において少量で興奮、多量で心機能を抑制する。
- ・枳実エキス及びsynephrineはイヌで心機能の促進、末梢血管の抵抗増加を示した。

○胃腸運動に関する作用：2)6)17)

・枳実の煎液は家兎の摘出腸管、麻酔犬の胃腸運動を著しく抑制するが、生体における胃腸運動の実験では逆に一定の興奮作用が認められた。

→胃下垂患者に対して枳実のみの煎液(1ml当たり0.7~1.3gの生薬重量に相当)を1日3回、1回10~20mlを服用させた臨床例がある。それによれば15~45日間の服用で21例中、X線所見、胃運動いずれも正常に復し、自・他覚症状の消失した全治例8例、好転例6例、有効例6例、軽減1例と報告されている。

- ・枳実の煎液はアセチルコリン、ヒスタミンのよる腸管収縮を顕著に抑制した。
- ・10%枳実液をウサギに服用させると下痢・軟便が起こる。

○子宮に対する作用作用：<sup>5)6)9)</sup>

・枳実の煎液は、家兔摘出子宮に対して収縮力を増強させ、強く作用させると攣縮を起こしめる。

・熱水抽出エキスはラット摘出子宮筋のセロトニンによる収縮に対して拮抗する。この作用はsynephrineによるものと考えられる。

○血液凝固抑制作用：<sup>5)</sup>

・水製エキスは濃度依存性に活性化部分トロンボプラスチン時間、プロトロンビン時間を延長させ、血液凝固抑制作用が認められる。また、標準平板に添加すると、抗プラスミン作用が認められ、比較的高濃度ではエピネフリン、コラーゲン、ADPによる血小板凝集を抑制する。

・また、エタノールエキスは、虚血性心疾患、血栓症などの患者血液から得た血小板の凝集を抑制した。

○抗炎症作用：<sup>5)6)17)</sup>

・naringin、neohesperidinはカラゲニン足浮腫（ラット）に対し抗浮腫活性を示す。

・また、neohesperidin等のフラボノイド類は、毛細血管の脆弱性や損傷による紫斑を抑え回復させる作用がある。

・枳実のフラボノイド（ウレタンスポンジ埋没法）は抗肉芽作用を示した。

・フラボノイドをヒト好塩基球好中球に作用させるとヒスタミンやグルクロニダーゼの放出が抑制される。これが抗炎症作用の機序と推定される。

○抗アレルギー作用：<sup>5)6)17)</sup>

・水製エキス、熱50%エタノールエキス（ラット）は48h homologous PCA反応において漏出色素量を有意に抑制した。

・水製エキス、熱50%エタノールエキス（ラット肥満細胞）はcompound 48/80、ConAによるヒスタミン遊離を抑制する。

・その他、水製エキス、熱50%エタノールエキスはII型アレルギーモデルである免疫溶血の抑制、ピクリルクロリド接触性皮膚炎・羊赤血球誘発遅延型過敏反応なども抑制した。

○抗腫瘍作用：<sup>5)</sup>

・ coumarin及びflavone誘導体（マウス）はP388癌モデルに対し、抗腫瘍作用を示した。

○その他：<sup>6)17)</sup>

・ 枳実の精油の主成分である(+)-d-limoneneには鎮痛作用の他中枢抑制、摘出回腸、子宮、末梢血管収縮、粘膜、局所刺激、生体位胆のう内圧およびOddi筋緊張亢進、胆汁分泌促進、生体位腸管運動促進、血清コレステロール量低下作用のあることが報告されている。

（古典的薬効・薬能）

薬味：苦・酸　薬性：微寒　帰経：脾・胃<sup>5)9)</sup>

枳実はその薬性が烈しく速やかで、気を破る力が強く、能く結を散じ、積を化す作用がある。胸腹部の膨満感を去る目的で、胸満痛、腹満痛、滯痰、消化不良等に応用される。

神農本草経：（中品に記載）大風皮膚中に在りて、麻豆の如く、苦痒するものを治し、寒熱・熱結を除き、利を止め、肌肉を長じ、五臓を利し、気を益し、身を軽くす。<sup>12)</sup>

要訳 皮膚感染疾患や皮膚炎等による搔痒のはげしいものを治し、種々の腫を取り、下痢を止める。代謝を改善し、内臓機能を高め気力をつけ健康にする。<sup>6)</sup>

薬 微：結実の毒を主治する也。旁ら胸満、胸痺、腹満、腹痛を治す。<sup>5)</sup>

重校 薬微：結実の毒を主治す。故に胸腹満痛を治し、胸痺停痰、癰腫を兼治す。<sup>10)</sup>

新古方薬囊：枳実は、熱をさまし、しこりを消すの効あり。また痛みをゆるめ腫を去る、故に諸の熱実又は癰腫を治するに用いらる。

中 医 学：行気消積

(その他)

・化膿性炎症の浸潤が強くて堅硬な状態には排膿散(枳実、芍薬、桔梗)が用いられる。実験で化膿性病態マウスに対する治療効果が認められた。しかし、純粋化合物による用量反応曲線に適応せず、高濃度では逆に効果が低下し、最適薬用量が存在すると推定される。<sup>6)</sup>

また、枳実中の抗炎症作用を示すneohesperidinの作用は芍薬中のpaeoniflorinによって増強される。<sup>6)</sup>

・枳実は苦味の強いものを良品質とするが、neohesperidin、naringin等のneohesperidose系配糖体には強い苦味があり古来からの評価の裏づけの1つと言えよう。

・枳実と枳殻

枳実は「神農本草経」の中品に記載され、枳殻は宗の「開宝本草」に初めて記載されたものである。枳実と枳殻が同一物であるか、異なるものであるかは古来から多く議論されているが、枳実と枳殻は同一物であって成熟度の違いで区別すると考えてほぼ間違いないだろう。<sup>2)3)</sup>

薬効・薬能は枳実と枳殻はほぼ同効で健胃、去痰、利水、消化の作用がある。しかし、王好古は「枳殻は高きを主とし、枳実は下を主とする。……大同にして小異がある。」といている。この点に関して李時珍は「……大体においてその功はいずれも能く気を利するもので、気が下れば痰喘が止み、気が行れば痞脹が消え、気が通じれば刺痛が止み、気が利すれば後重が除かれる。それ故、枳実は胸膈を利し、枳殻は腸、胃を利するのである。それゆえ、張仲景は胸痺痞満を治するのに、枳実をもって要薬とした。諸方では、下血、痔痢、大腸痞塞、裏急後重を治するのに、また枳殻をもって通用させている。これで見れば枳実が独りで下を治するでもなく、また枳殻が独り高きを治すというだけでもない。」といている。現在臨床上の習慣として、枳実はその薬性が烈しく速やかで、気を破る力が強く、能く結を散じ、積を化す作用があると認められ、枳殻はその性質が緩和であり、気を利するのに用いよく中を寛め、張を除く作用があるとされている。共に胸腹部の膨満感を去る目的で、胸満痛、腹満痛、滞痰、消化不良等に応用される。<sup>2)</sup>

<参考文献>

- 1) 日本薬局方 第12改正
- 2) 和漢薬百科図鑑 難波恒雄著
- 3) ウチダ和漢薬勉強会資料
- 5) 生薬ハンドブック ツムラ
- 6) 現代東洋医学 Vol.6 No.2
- 8) 新古方薬囊 荒木性次 方術信和会
- 9) 漢薬の臨床応用 神戸中医学研究会
- 10) 重校薬徴・類聚方広義 西山英雄 創元社
- 12) 神農本草経 森立志 昭文堂
- 13) 意訳神農本草経 小曾戸丈夫 築地書館
- 16) 原色和漢薬図鑑 難波恒雄 保育社
- 17) THE KAMPO Vol.8 No.4

平成7年10月12日

北里東医研

# 参 考 資 料

枳 実・枳 殼

(株) ウチダ和漢薬 営業開発部

# 枳 実・枳 殻

<原 植 物>

## 『日本薬局方』

### 「枳 実」

本品はダイダイ *Citrus aurantium* Linne var. *daidai* Makino、ナツミカン (ナツダイダイ) *C. natsuidaiai* Hayata、又はその他近縁植物 (*Rutaceae*:ミカン科)の未熟果実をそのまま又はそれを半分に横切りしたものである。

局方の解説書の注1には、「日本ではウンシュウミカン、ダイダイ、ナツミカンなどの風害による未熟果の早落ちを拾い集めたものをそのままか、あるいは半分に輪切りにして天日で乾燥する。」とあるが、ウンシュウミカンは使用されていない。又、早落ちを拾い集めるのではなく、摘果し、小さいものを枳実、大きなものを枳殻とする。

本年は7月上旬～中旬に採集する予定である。

## 『中華人民共和国薬典』

### 「枳 実」

ミカン科の酸橙 *Citrus aurantium* L. (ダイダイの原種) 及び、その栽培変種、あるいは甜橙 (アマダイダイ) *C. sinensis* O. の幼果を乾燥したもの。5～6月に自然に落下したものを採集する。径は0.5～2.5 cm。

### 「枳 殻」

ミカン科の酸橙及び、その栽培変種の未成熟果実を乾燥したもの。7月に果皮がまだ緑色の時に採集する。径は3～5 cm。

## 『中薬大辞典』

### 「枳 実」

ミカン科の植物の枸橘（カラタチ）*Poncirus trifoliata* L. O、酸橙（ダイダイの原種）*Citrus aurantium* L.、或いは香円（イチャンレモン）*C. wilsonii* T. の幼果（5～6月採集）である。

### 「枳 殻」

枸橘、酸橙、香円、或いは玳玳花*aurantium* L. var. *amara* E. 等のまさに成熟に近い果実（7～8月採集）である。更に他にも甜橙（*C. sinensis* L. アマダイダイ）も使う。

## 『薬 剤 学』

### 「枳 実」

ミカン科の植物の枸桔（カラタチ）、香円（イチャンレモン）、酸橙（ダイダイの原種）の乾燥した幼小果実（7～8月採集）。

### 「枳 殻」

ミカン科の植物の枸桔（カラタチ）、香円（イチャンレモン）、酸橙（ダイダイの原種）、代代花等の未成熟果実（9～10月採集）

以上をまとめると、日本産・中国産ともに、ミカン属植物の中で成熟時に果皮の厚い品種のみが「枳実」「枳殻」として使用されることが分かる。更に、成熟度によって「枳実」「枳殻」に分けられていることが明白である。

## <市場品>

日本、中国、韓国産がある。

日本産：愛媛、広島、和歌山県を中心に栽培されるナツダイダイ（ナツミカン）、ダイダイの幼果を「枳実」、更に成長の進んだ未熟果を「枳殻」としている。

中国産：生産地区はかなり広範囲である。市場品には、川枳殻（実）、江枳殻（実）、蘇枳殻（実）、温枳殻（実）、緑衣枳殻（実）等がある。この中で緑衣枳殻はPoncirus属のカラタチで、それ以外は全てCitrus属である。

韓国産：ミカン科のカラタチ *Poncirus trifoliata* Ral. の幼果を「枳実」としている。カラタチは、比較的果皮が薄いため枳実としては使用出来るが、更に成長が進んだものとなると「枳殻」として使用するには問題があるように思われる。また、果皮表面に柔毛があることで、他の植物と容易に区別出来る。原植物の点で局方不適となる。

## <選 品>

### 『枳 実』

方 伎 雑 誌：唐の品、香氣ありてよし。心胸を開き、腹中の鬱閉を通ずること妙なり。あまり大ならず、肉の茶褐色なるもの佳なり。肉白き物は、宜しからず。和産茶の実様、丸葉様というものは橘、柚、橙、柑、臭橘などの花落ちという物を、拾い集め、乾したる物なり。苦み甚だしく、臭気強く、芳香の気なし、用ゆべからず。

一般的には、芳香性で果皮が厚く、苦みの強いものが良品とされている。また、陳くて、表面が黒味を帯びているものが良く、新しいものは気味が激しいので、用いない方が良いとされている。

<枳実の漢方薬理>

- 薬 徴 : 結実の毒を主治する也。胸満胸痺、腹満腹痛を旁治す。
- 重校薬徴 : 結実の毒を主治する。故に胸腹満痛を治す。胸痺停痰、癰膿を兼治す。
- 古方薬議 : 味苦寒。寒熱結を除き、痢を止め、胸脇痰癖を除き、停水を逐ひ、結実を破り、脹満を消し、心下急痞痛、逆気喘咳を主る。
- 薬性提要 : 苦酸。微寒。気を破り、痰を行らす。胸膈を利す。腸胃を寛げる。
- 古方薬品考 : 味極めて苦く、辛気芳烈。故に善く膈気を降泄し、痞癖を排し、結実を破るの功有り。

要約すると「結実、気滞の毒を破り、胸満、胸痛、腹満、腹痛を治す。」といえよう。

<中薬大辞典>

『枳 実』

- 性味・帰経 : 苦、寒。脾、胃に入る。
- 効能主治 : 破気、散痞、瀉痰、消積。治胸腹脹満、胸痺、痞痛、痰癖、水腫、食積、便秘、胃下垂、子宮下垂、脱肛。

『枳 殼』

- 性味・帰経 : 辛苦、涼。肺、胃、大腸に入る。
- 効能主治 : 破気、行痰、消積。治胸膈痰滞、胸痞、脇脹、食積、噯気、嘔吐、下痢後重、脱肛、子宮脱垂。

～経史証類大観本草（1108年刊）より～

## 「枳 実」

神農本草経：枳実：大風、皮膚中に在り。麻豆の如く苦痒するを主り、寒熱結ばるるを除き、痢を止め、肌間を長じ五臓を利し気を益し身を軽くする。

名医別録：胸脇の痰癖を除き、停水を逐り、結実を破り、脹満、心（3～4世紀）下急痞痛、逆気脇風痛を消し、胃気を安んじ澹泄を止め、目を明らかにする。河内（河南省の黄河以北）川の沢に生じ9月・10月に採り陰乾する。

枳実のみで枳殻の記載はない。

神農本草経集注：この頃も枳実のみで、9月・10月に採集したものを上（500年頃）記の目標で使っていたと考えられる。

開宝本草：枳実の項に加筆はされているものの、記載されている枳（974年刊）実の薬効はいままでと変わらない。

図経本草：河内（河南省の黄河以北）の川沢に生じ棘が多く春に白（1062年刊）花を生じ秋に到て実を成す。7月、8月に採る者、（枳）実と為す。9月、10月に採る者（枳）殻と為す。今の医家、皮厚くして小の者を多く（枳）実と為す。実が完成し大なる者を枳殻と為す。

図経本草には同じ場所とれるもので7月、8月採ったものを枳実、9月、10月のものを枳殻とすとはっきり記載されている。

場所の差よりも時期が大事であろうか。

## 「枳 殼」

開 宝 本 草：枳殼。味苦酸、微寒 無毒。風痒、麻痺。關節を通利し  
(974年刊) 勞気欬嗽、背膊悶倦を主る。胸膈に留結する痰滯を散じ、  
水を逐い脹滿、大腸風を消し、胃を安んじ、風痛を止め  
る。(枳殼は)商州(陝西省商南県一帯)の川谷に生じ、  
9月・10月に採り陰乾する。

枳殼は“開宝本草”で初めて集録され枳実と異なる薬  
効が記載されている。但し、生産されるところが違うも  
のの、どちらも同じ時期に採集したものになっている。

図 經 本 草：文は枳実の條下に具わる。

(1062年刊)

“名医別録”で「枳実は9月、10月に採る」とある。ところが“開宝  
本草”は「枳殼は9月、10月に採る」とあり、9月、10月に採るも  
のは枳実、枳殼のどちらにしたらいいか、わかりかねる。

さて、“図經本草”では「秋に到りて実を成す」とあり、秋には完熟す  
るものであることがわかる。更に宋代では、7月・8月の実がまだ小さ  
く皮があるものを枳実、9月・10月の実が大きくなるものを、枳殼と  
している。それならば、“名医別録”に記載の9月・10月に採る枳実  
は少なくとも小さくて皮が厚いものではない。むしろ、実が大きくなっ  
たものを枳実としていた可能性がかなり高い。又、“名医別録”と“開  
宝本草”では採集時期が同じなのに枳実と枳殼とし、その主るところの  
記載は異なったものになっている。

<ま と め>

～仲景の枳実は何ぞや～

陶弘景（452～536年）の頃まで9～10月採集品を使っていたと考えられるので、2～3世紀及びそれ以前も現在の市場品の枳殻を使用していたのだろう。即ち、仲景の枳実は今現在の枳殻と考えられる。

～枳実と枳殻を使い分ける必要はあるのだろうか～

市場品は中国産、日本産とも同じ植物で、成長度によって、枳実、枳殻に分けられる。使用する生薬側の差はそれなりにないわけではない（成長の含有量の量的な差もある。）。しかし、この問題は下記の文章を紹介することでお許しを願います。

『李時珍は「枳実・枳殻は気味、効用ともに同じである。上代にも区別はなかった。枳実・枳殻を区別する様になったのは魏晉以来である。張潔古、李東垣は高いところの物を治すのと下のものを治すののに使い分けたが、そもそもその効はみな気を利することにある。気が下がれば痰喘は止まり、気がめぐれば、痞脹は消え、気が通れば痛刺は止まり、気が利すれば後重は除かれる。故に枳実は胸膈を利し、枳殻は腸胃を治るのである。そうであったから、張仲景は胸痺痞滿を治する主要薬を枳実とし、下血、痔痢、大腸秘塞、裏急後重などには枳殻を通用しているのだ。よって枳実はただ下を治するだけでなく、枳殻も高いところを治すだけではない。そもそも口から肛門までみな肺が主り、三焦相通じて一気であることを思えば枳実と枳殻は分けても分けなくてもよい。」と記しており、両薬物を厳密に使い分ける必要はなさそうです。原植物としても古来両生薬ともに産地による品質の優劣があまり論じられてこなかったことから察して、薬効的に多少の強弱があるにせよいづれを用いても良いように考えられます。神農子記』

生薬の玉手箱No.17（ウチダの和漢薬情報誌）より

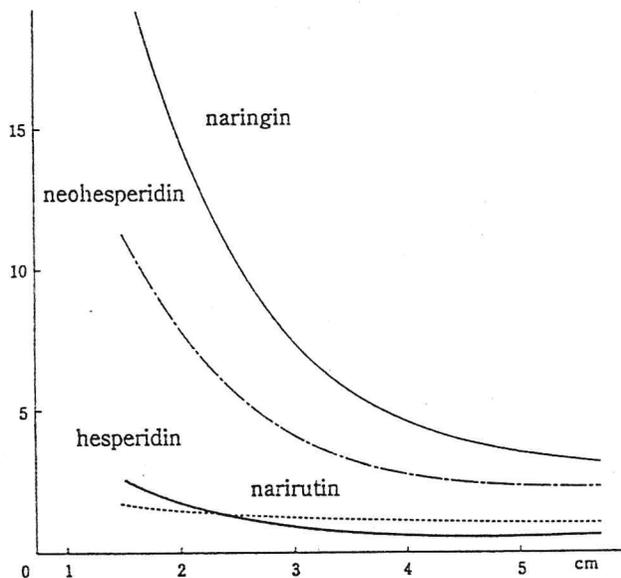
# フラボノイド含量 (%)

生薬学雑誌  
Shoyakugaku Zasshi  
42(1), 41~47 (1988)

No.	試料	採集時期	ナリンギン	ネオヘスペリジン	ヘスペリジン	ナリルチン
1	C. daidai (ダイダイ)	7月	10.81	9.70	0.39	0.25
		9月	4.92	3.17	—	0.11
2	C. natsudaidai (ナツダイダイ)	8月	4.15	3.08	—	—
3	C. hassaku (ハッサク)	7月	5.68	2.97	0.19	0.77
4	C. sinensis (アマダイダイ)	8月	—	—	2.66	0.11
5	C. unshiu (ウンシュウミカン)	7月	—	—	12.40	3.41
		9月	—	—	6.79	1.24
6	C. trifoliata (カラタチ)	10月	3.16	—	—	0.18

キジツの直径とフラボノイド含量の関係

FOODS & FOOD INGREDIENTS JOURNAL OF JAPAN No.162-1994別刷



# 生薬の玉手箱

(No.17)

## 【枳実と枳殻】

基源：ミカン属植物 *Citrus* spp. (ミカン科 Rutaceae) の果実、幼果を「枳実」、更に成育の進んだ未熟果を「枳殻」とする。

*Citrus* 属植物の原産地は日本の南部地域をも含めた東アジアの熱帯で、果樹としての栽培品種はこれらの野生種あるいは栽培種の枝変わりや突然変異株から選別されたものです。また、苗木は主に接ぎ木により生産されますが、台木の影響が現れることもあり、その品種レベルでの分類は極めて困難になっています。

植物分類学的な難しさのみならず、生薬市場においてもそれらの果実に由来する「枳実」と「枳殻」の基源が大変混乱しています。以下にわが国の生薬学の参考書等の記載内容をいくつか挙げてみたいと思います。

○枳実は自然落下した未熟果（大きいものは半切り）を乾燥したもので、枳殻は成熟に近い緑色果実を二つに横切りにして乾燥したものである。

○日本市場の枳実は未熟橙皮で、枳実（丸のまま）と枳殻（二つ割）とに大別する。

○日本においては、枳実はダイダイ、ナツミカン、ミカン、あるいは近縁植物の未熟果またはその横半切品を乾燥したものである。未熟果そのままの「枳実」と二つ割した「枳殻」に大別される。

○枳殻はカラタチの未熟果実を3から4片に輪切りしたものであるが、日本の市場で枳殻、枳実とされるのはほとんど未熟橙皮である。

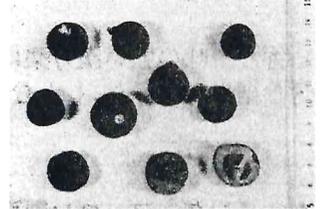
○枳殻はカラタチの未熟果実である。しかし現在ではダイダイ、その他の未熟果（未熟橙皮）である。

枳実は『神農本草経』中品収載品で、枳殻は『開宝本草』収載品です。歴代の本草学者の意見を総合しますと、「同一植物の未熟果実を枳実、成熟果実を枳殻として利用するが、その効能はほぼ同様である」ということに落ち着くようです。しかし原植物は10種類以上に及ぶとされており、その形状はそれぞれ異なっており、切り方のみならず大小も様々です。現在の中国市場品を見るかぎりではいずれの枳実も枳殻も皮（果皮）が厚く、ダイダイの仲間 *C. aurantium* L. やイチタンレモン *C. wilsonii* Tanaka が主たる原植物のようです。一方、日本市場品は日本産のダイダイ *C. aurantium* L. subsp. *amara* Engl. やナツダイダイ *C. natsudaidai* Hayata の未熟果実で、小さめで丸のままのものを枳実、大きめで半割したものを枳殻としています。また、他に原植物としてウンシュウミカン *C. unshiu* Mar. も挙げられていますが、ウンシュウミカンの果皮は熟すと薄くなるため、枳実として未熟果を利用することはできても枳殻として成熟果を利用するのは無理なように思われます。

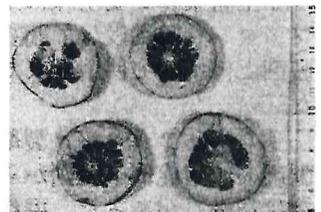
以上のようなことをまとめますと、多くのミカン属植物の未熟果実とは枳実として利用でき、成熟果実の果皮の厚い品種のみが枳殻として利用できるものと考えられますが、現在市場にはかなり果皮の薄い枳殻もあります。ただし、原植物にカラタチ *Poncirus trifoliata* Ral. を充てるのは日本の本草学者の誤りであり正しくないとされ、このものは表面に細かい柔毛があることで他と容易に区別がきます。

さて問題はこれらの異物同名品の効能ですが、李時珍は「枳実・枳殻は、気味、功用ともに同じである。上代にも区別はなかった。枳実・枳殻を区別するようになったのは、魏晋以来である。張潔古氏、李東垣氏は、高いところの物を治すのと下のものを治すのに使い分けしたが、そもそもその効はみな氣を利用することにある。氣が下がれば痰喘は止まり、氣が行れば痞脹は消え、氣が通れば痛刺は止まり、氣が利すれば後重は除かれる。ゆえに枳実は胸膈を利し、枳殻は腸胃を治すのである。そうであったから張仲景は胸痺痞滿を治す主要薬を枳実とし、下血、痔痢、大腸秘塞、裏急後重などの治療薬に枳殻を通用しているのだ。よって、枳実はただ下を治すだけでなく、枳殻も高いところを治すだけではない。そもそも口から肛門までみな肺が主り、三焦相通じて一氣であることを思えば、枳実と枳殻は分けても分けなくてもよい」と記しており、両薬物を厳密に使いわけする必要はなさそうです。原植物としても、古来両生薬ともに産地による品質の優劣があまり論じられてこなかったことから察して、薬効的に多少の強弱があるにせよ、いずれを用いても良いように考えられます。ただし「陳皮」と同じく、あくまでも六陳の一つに数えられる生薬であるからには、陳旧品を使用するよう心がけたいものです。

(神農子 記)



枳 実



枳 殻

### 発行所 株式会社 ウチダ和漢薬

本社	〒103	東京都中央区日本橋本町	4-2-8	TEL 03 (3241) 4241
東京営業所	〒116	東京都荒川区東日暮里	4-4-10	TEL 03 (3806) 1251
本東京営業所	〒116	東京都荒川区東日暮里	4-4-10	TEL 03 (3806) 1251
神奈川営業所	〒228	神奈川県相模原市相武台	1-10-11	TEL 0462 (57) 1911
大阪川営業所	〒565	大阪府吹田市青葉丘南	6-23	TEL 06 (877) 8222
大丸営業所	〒811-41	福岡県宗像市田久棚	734	TEL 0940 (33) 1692
大丸営業所	〒020	盛岡市長田町	10-23	TEL 0196 (22) 3141
札幌連絡所	〒003	札幌市白石区北郷2条	3-7-13	TEL 011 (875) 2770
富山連絡所	〒939	富山県富山市上袋	628	TEL 0764 (25) 0546

經氣味苦酸寒微寒無毒主天風在皮膚中如麻豆苦

淫餘寒凝結止痛長肌肉利五臟益氣輕身除骨脊痠

痺逐停水破結實消脹滿心下急痞痛逆氣脅風痛安

胃氣止澹洩明目生河內川澤九月十月採陰乾獨陰

今氣頗有撲破令乾用之除中核微炙令香亦如橘皮以陳者為

良以樹皮及皮瘻水脹暴風骨節疼急枳實俗方多用道家不須

厚皮也云枳實曰乾乃得陰便腐爛也用當去核及中瓢乃佳今

或用枳實乃橘若稱枳實便合核難用者殊不然也今按陳藏器

本草云枳實根皮主壽末服方寸匕本經採實用九月十月不如

七月八月既厚且辛舊云江南為橘江北為枳今江南俱有枳橘

江北有枳無橘此自是別種非關變也臣禹錫等謹按

枳實臣味苦辛解傷寒結管入陷胃腸用主上氣喘效晉內傷論

加而用之

圖經曰枳實生何內川澤枳殼生荊州川谷今京西江湖州郡

多刺春生白花至秋成實九月十月採陰乾舊說七月八月採若

為殼皆以蠶肚如盆口唇狀頃陳久者為勝近道所出者俗呼

鼻滿不堪用張仲景俗心下堅大如盤水飲所作枳實末湯主之

草十三

枳實七枚末三兩以水一斗煎取三升分三服腹中輒即稍減之

又胃痺心中痞堅留氣結管兩脅下逆氣捨心枳實雜白桂湯

主之陳枳實四枚厚朴四兩雞白半斤切括樓一枚桂一兩以水

五升先煎枳實厚朴取二升去滓內餘藥煮湯中煎三兩沸分溫

三服當愈又有橘皮枳實湯桂枝湯枳實湯皆主胃痺心痛葛洪

拾卒胃痺痛單用枳實一物搗末服方寸匕日三夜一其根皮治

大便下血未服之亦可殺計常飲又治卒中急風身直不得屈伸

反覆者刮取枳木皮屑謂之枳茹一升酒一升漬一宿服五合至

盡再

外臺祕要

陰風膠取枳實以醋漬令焦火干至方治前痺

久令熱適寒溫用殺上即消

心膈不利枳實二兩熬炒微黃為末治積滯脫肛

非時以清酒微調下一錢聖惠方同上磨令屑鑿著柄窵

釜火炙令煖更易治腸風下血枳實半斤熬炒去麩綿

漿肛取筍即止治黃耆半斤此劉為末米飲非時下一

錢七若難服以粥為治五痔不以年月日火新枳實為

丸湯下三五九治五痔不以年月日火新枳實為

十濟眾方治傷寒後六寸膈閉痛枳實一味劉殺

兒久痢淋瀝水穀不調枳實六分搗末以飲子母祕錄治婦人

計調二錢匕二歲服一錢子母祕錄方同上

痛用半斤碎炒令熟故帛裏熨冷即易之

